

占 春 会 報

第6号

発行 八尾市柏村 169-3 八尾市立清友高校
占春会事務局 TEL. (0729) 22-2067



昭和8月9日、夏のバスツアー「びわ湖バレイ」にて

卒業生 みなさまに

会長 河合幸子(二期生村田)
はるかな信貴の峰々も、さわやかな初夏を迎えて、母校清友に優しいほ、えみをなげかけているような、今日この頃です。

会員のみなさまお元気ですか。ついこの間、会報五号を発送したようですのに、もう六号と、一年がすぐたつてしまふようです。だがこの一年、なんと色々な事の多かつたこと。

先づ占春会にとつて、身近におられた吉田節子先生の突然のご逝去、学校全体が深い悲しみにおちたあの日、やがて、その悲しみを心の傍へ、そつとあずけて、元に戻した時は前にも増して、猛烈なファイトが湧きあがつて来るのでした。

母校清友を早くなんとかしなけ

れば、全学・PTA・占春会、清苑会とで、陳情、会議が続けられ、やっと移転用地の決定という所までこぎつけたのです。

対立移管促進委員会が、四月二十六日をもつて、対立移管建設委員会と改名され、校舎建設を早急にとの、運動方針が力強い運びで進められつ、あります。

ここで私達卒業生は、もう一度、清友の名前も共々移管される事を信条として叫び続けて行くうではありませんか。

●六千人に及ぶ卒業生の皆さん。願いを一つにして叫べば、いかに大きな力を持っているかということ、更に更に、認識されて、母校清友の動きと共に、情熱をもって行動を共にしていただきたい事をお願いすると共に、絶大なるご援助いただきますよう重ねてお願いいたします。

新入会員 歓迎 総会御案内

6月23日(日) 午後1時~3時

一部 総 会

富田校長挨拶

会長挨拶

新入会員挨拶

新役員紹介

決算報告

二部 吉田先生を偲ぶ会

吉田先生を語る

先生、卒業生

御焼香

以上

各教室を解放してもらいますので、あとは、各期でクラス会を開いて下さい。

校長隨想



伝統のありがたさ

富田 八郎

昭和十六年に清友学園として発足して今年で三十三年になりました。八年前に清友学園二十五周年八尾市立十周年記念の催しがありました。今度は大阪府立移管へ、全学、PTA、先輩あげて努力してまいります。

このときに二つの話をお伝えしたいと思います。

占春会河合会長が、八尾市民ホールで、たとえ府立に移管されるとも、清友の名は必ず残すこと。これが卒業生五千名の悲願であるとともに、その家族をふくめて数万人の念願であると絶調されたことは、参会中の府・市議会議員に強い印象を与えました。

昭和四十九年四月に府立高校が十数校でできましたが、その内容も必ずしも芳しいものではありません。それに反して清友高校は三月四日に定数に達し、さすがは清友高校だと、市の助役も府でいつてきたとのこと、その中には親子二代、姉妹同窓というのが沢山あります。

ある中学の生徒が自分で新、旧の高校を廻って見て、清友は施設はよくないが、何か落付いていて自分の進路は清友だと父母を説得したということを書いてうれしく

なりました。同時に私たちの責任の重大さをひしひしと感じます。

最近本校から他の新設の高校にかわった先生の実感をききました。高安駅から緑したたる学園、小さいながらも暖みのある友人、そして長い伝統が、図書に、設備にしみわたって、新設の校舎は立派だが、その他のものは何もないのにくらべて、離れて見て、清友のありがたみがわかったと述懐していました。

たしかに清友は校舎は貧弱です。女子ばかりで活気に乏しいといわれます。しかし三十数年間、先輩の築かれた尊い風格は何ものにも変えがたいと思われれます。

吉田先生の急逝にアベノ教会と共に祈り、泣いたあの純真さは私の生涯で忘れられない尊いものと思っています。

府立移管後もこの良い伝統をうけつぐように努めたいと思います。外見だけで物を判断する風潮に対し、中身を見て下さいといえるよう努めたいと思います。

母校

だより



教頭 小西康弘

新しい年度を迎え、学校は今活気づいています。校庭の緑もいよいよ鮮やかになってまいりました。卒業生の皆さんにはお健やかで御活躍のこと、じます。

府立移管問題も、一昨年、昨年と続けた運動の中で、すでに府立移管が確定し、あとは時期と移転場所が交渉段階になっておりました。

昨年度は八尾市当局と大阪府当局との間において、これらの点について再三交渉が持たれ、場所については、ほぼ八尾市木ノ本の大正地区となったようです。ここは現在八尾飛行場の一部として使われているのですが、ここが他の場所に移転されることになり、その跡地の払下げをうけて清友高校をもつてくると言うことなのです。尚この跡地は約三万五千坪あり、そのほか公園、住宅建設なども行うと云う大きな計画のようです。ただこれだけでは計画が膨大すぎて簡単にいくように思えないのですが、この土地(国有地)については既に地元で払下げをすることが内定しているとのことなのです。このような中で清友高校の移転だけでも、早急に行い、同時に府立化するよう働きかけてもらっています。

しかし跡地には建造物もあり、これの移転もからんでいますので五十年四月移転と府立移管を目標にしていますが、時期については今の段階ではまだ確定なことはないようです。いずれにせよ場所はほぼ確定していますので、あとは時期を少しでも早くするよう今後ともつめる必要があると思います。このほどその為PTA 清苑会、占春会、学校側の四者で、

府立清友高校建設準備委員会が作られ、校舎建築を一刻も早くするよう働きかけていくことになりました。尚この場所は現在バスの便だけしかありませんが、五二年には地下鉄谷町線が天王寺から延長されることになっており、既に工事も始まっておりますのでその時点では便利が良くなるのではないかと考えられます。

次に学校内のことについてお知らせします。

一、職員の異動について

〔転退職〕

吉田節子先生(英語) ↓ 昨年六月に死去

上林敬子先生(国語) ↓ 府立西成高校へ(新設校)

石博清司先生(体育) ↓ 京都府立医科大学へ

〔新任〕

水島尚子先生(英語) 関西大

学卒

杉本純子先生(国語) 大阪府

立女子大卒

奥 武文先生(体育) 中京大

学卒

吉田節子先生については、別掲で詳しく出ておりますが、昨年六月心臓病の急逝されました。突然の卦報に職員、生徒一同は驚愕すると共に、非常に歎き悲しみま

した。亡くなられて、一層先生の素晴らしさが偲ばれる今日此頃です。

一、最近の生徒について

生徒 最近の風潮もあり、一

般にのんびりと過しています。クラブ活動の面では熱心にやっている生徒もいるのですが全体としては加入するものが少く、低調と云えましょう。文化祭などもクラブとしての取り組みよりも、クラスと

のまとまりを強調して、クラスとしての取り組みが強くなっています。

一、昨年度卒業生の進路

〔卒業生総数〕 270名

就職者 138名

進学者 113名

家事及び各種学校進学者19名

〔主な就職先〕

日本生命(4) 住友生命(4) 大倉商事(4) 住友銀行(4) 明電舎(3) 久保田鉄工(3) 日立造船(3) 東洋レーヨン(3) 大阪屋証券(3) エフワン(3) など

〔主な進学先〕

短大 関西外国語短大(11) 常盤会短大(10) 相愛女子短大(8) 成蹊女子短大(10) 夙川学院短大(7) 四天王寺女子短大(5) 帝塚山短大(4) 帝塚山学院短大(4) 大手前女子短大(3) 4年生 11 仏教大(5) 帝塚山学院大(5) 天理大(2) 大阪芸大(3) 樟蔭女子大(2) 英知大(2) 追手門学院大(2) 京都市立芸大(1) 近大(1) 関西大(1) 神戸女子大(2) など

一、主な行事予定

7月4、8日 3年生修学旅行 (信州)

7月10、12日 2年生宿泊訓練

(信太山)
7月21日～8月31日 夏期休暇
(クラブ合宿)

9月22日 体育大会(雨天24日)

10月12～13日 文化祭

12月24～29日 スキー教室
(信州)

2月27日 卒業式

一、その他消息

(結婚)

樋口全毅先生・田井稔乃先生

四十八年六月

中川淳先生 四十八年九月

富田隆文先生 四十九年三月

(赤ちゃん誕生)

辻村幾代江さん

二男 信也ちゃん 四十八年六月

井上弘之先生

長女 詩穂ちゃん 四十八年八月

大江(安田)和子先生

二女 千秀ちゃん 四十八年八月

原田彰先生

長女 まやちゃん 四十九年四月

お知らせ

▽永い間占春会をご担当下さった

吉田先生亡きあと、今年度より、

篠喜好先生が、西沢先生と共に、

お手伝い下さる事になりました。

(かげの声)

待望の男先生来る、あ、ウレシ

イナ……。

皆さん今日!

篠 喜好

占春会会員の皆さん今日は。吉田先生のを引きついで、今年四月から西沢先生とともに占春会のお世話をさせていただくことになりました。総会の計画やこの占春会報発行の準備などの役員会や回期代表の会に、河合会長さん宅に何回か出席させてもらっています。役員の方々の話の中に必ず出るのが「総会にもっとたくさんの方が集まったらなあ」「会報にクラス会だよりなどの原稿がもっと寄せられたらなあ」そしてどっさり山積みされて帰ってくる会報を見て「会員に住所変更など異動があったときは必ずすぐ連絡してほしいなあ」ということです。これらのことは僕も今までうすうすは感じていたことですが、何分の一かの責任のある立場になって強く感じています。占春会がより発展向上していくためには、役員の方だけではなく、会員の皆さん全員の力が必要です。その第一歩がさきほどの願いなのです。よろしく願います。そして、さらに、みんなの占春会へ希望や意見もどしどし寄せてください。心待ちにしております。



◎

松尾先生が第一学期で御退職になり、東京の御令息の許へ行かれる御予定なので、この総会にはできるだけ御出席の上先生にお会いして下さい。東京へ行かれると中々お目にかかれないでしょうから、特に先生の担任だった方はぜひお越し下さい。

一面にご案内しましたように、今年の総会第二部は吉田先生を偲ぶ会です。ご葬儀・学校での追悼会に都合で参加できなかった方はぜひご出席ください。

上林先生を送る

上林敬子先生はこの春、新設の



お別れ

吉田節子先生とお別れして涙もまだ乾かぬ昭和四十八年七月二十日終業式のあと、学校で、在校生、卒業生、PTA、清苑会、職員、旧職員相集まり、次のような次第で追悼式が行われました。

白菊黄菊に埋められた、にこやかな先生の写真が、集った卒業生、在校生をなつかしげに見ている下さる中を、それぞれの思いをこめて先生のなつかしいお人柄を偲び、つきぬ名残を惜しみました。

吉田先生 追悼の会

1. 開会のことば
2. 学校長挨拶
3. PTA会長挨拶
4. 吉田先生を語る

○西沢小枝(職員) ○日吉律子(在校生・3C代表)
○河合聿子(占春会会長)

■生前の声(44年度卒業生におくることば)
■英語劇——英語部 ○徳田正俊(職員) ○森義美(34年卒業生・旧姓横山)

■生前の声(結婚式のスピーチ)
■音楽部——在校生と卒業生合同
○浜田育子(生徒会代表) ○竹原清治(清苑会会長)
○中村伊佐美(テニス部卒業生)
○山田邦子(職員)

5. 遺族挨拶
6. 閉会のことば

府立西丘(校)へ転任されました。新卒の初々しい先生として赴任されて以来九年間、実にエネルギーに、生徒との話し合い、指導に、ユニークな授業の取組みに、御自身の研究に、婦人部の問題に、全身でぶつかってこられました。今は清友とすつかりちがう新しい学校で新しい仕事に果敢に取組んでおられ、大変お忙しそうです。

次に掲げますのは先生から私たちへのお便りの一節です。

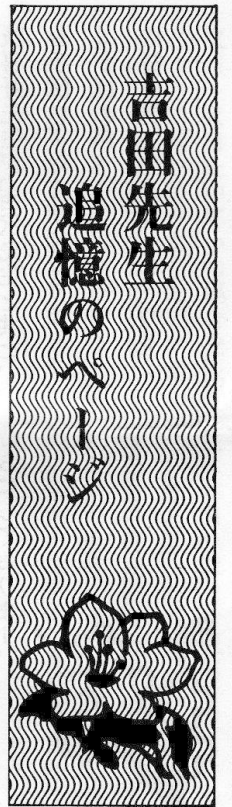
「清友とは全く別世界の今の職場は私にとってはかなりシンドイ毎日です。たかだか一ヶ月で弱音をなく自分をいましめながら、かうじて続けているというのが本音といえましょう。……(中略)」

清友のグラウンドで明かるく高らかにひびく生徒の球技大会応

援の声が聞えてくるようです。今後の皆様の御健康御発展を祈り上げます。

清友もやがて新しく生まれ変わる時、先生のようにバイタリテイに奮む方の求められる時、先生を失ったことは大変残念なことでもどこにあっても同じ教育の仕事に精進されるのですもの。今後の先生の御健勝とお幸せを皆様と共に祈りたいと思います。

めぐりあひていくとせ共に語らひしこの思ひ出は消ゆる日なけん
無気力に流れんとする若きらに考ふること教へたまひし
清友を去りたまふとも折々は思ひ出しておとなひたまへ
(四九・四) 西沢記



永遠のいのち

西沢 小枝

吉田先生急逝

それは去年六月二十七日の朝、突然私たちを襲った悪夢のような出来事でした。病氣入院中の御主人の看病に眠れぬ一夜を明かし、そんな中で気になる学校へ出ようと朝用意をしておられた時倒れられ、そのまま帰らぬ人となられたのでした。この思いもかけぬ出来事が先生を知る限りの人に与えた衝撃の大きさは、先生のお人柄の懐かしさ、温かさ、精いっぱい生きられたその生涯の美しさを十分に物語っています。次にそれぞれの人の胸に生きている先生の面影を思ひみましましょう。

五人のお子さま

先生が生涯をかけて創り上げられた最大の芸術である五人のお子様は、いのちをかけた母君の贈物を大切にそれぞれの人生を精いっぱい生きておられます。左の御挨拶状に皆様のお心が滲み出ています。

(前略) 突然におそった死(心筋梗塞)までの母の人生は、戦後の混乱期のさ中であって幾多の苦難の連続であったと申せましよう

が、常に微笑を絶やさず、人を愛し、人に愛されて過した一生は悔いのないものだったと思います。人を愛し—生徒を愛し—子供を愛し—人を疑うことのなかつた母、何事も善意に解釈した母。

母が私達に残したものは限りなく大きく、私達はこれにかわる遺産はあるまいと思います。この遺産を私たちは大切に守り続け、いくらかでも受け継いでいきたいものと考えます。(後略)

清友のひとりひとり

清友の生徒の一人一人に寄せられた愛の深さは次の詩によく表われています。

吉田先生へ6月二十七日

吉田先生 あなたの想い出を抱きしめてみると
なぜこんなにもあたたかいのでしよう

どうして涙がこぼれおちるのでしよう
こんなにも私はあなたの存在を感じていたのですね

もしもう一度 私の前にあなたが立つなら
私は、今 生きている喜びを感じ

明日に そして未来にはばたいていけるでしょう

そんな そんな そんな……
この涙だけが本当で
明日のあなたの姿がないなんて
全くうそでしょう
全くのうそであってほしい
ああ 私の大好きな先生
吉田先生
こんなにも雨の降る日に
あなたはとうとういってしまわれた

(四九年卒)内田洋子



ありし日の吉田先生

占春会

先生とは占春会のお仕事をずっと御一緒にしてきました。先生は久しぶりにあう人々の心を温く包まれ、皆は敬愛する先生におあいするのをとても楽しみにしていたようでした。色々用事が重なり普通ならあしんど音をあげるよくな時でも、労をいとわず汗をふきふきにこやかにやって下さったので、先生と御一緒にする仕事は楽しくまりました。
今はもう亡き人になられました

が、浅井先生、永井先生、石田先生、和泉のおばさんの病氣見舞にいったのはいつも先生と御一緒でした。お見舞は思い立った時に行きましよう。あの時行っておけばと後に返らぬ悔を残さぬようにといつもいつては御一緒しましたのに、淋しい限りです。私の元氣な間はこれのお約束を守りたいと思っています。

私たち

二十四年間を吉田先生と共に過ごした松尾先生と私は、大きな心の支えを失った淋しさをこの一年間じつと堪えてきました。この三人は三傑とも御三家ともいわれ、いつも同じように考え行動しそれぞれの仕事を分担していました。また私的などんなささやかなことでも帰りの車の中でよく語り合いましたが、何げない言葉の端々に何ともいえぬほのぼのとしたものを感しました。先生ほど何事も善意に受取って素直に感動し、喜び、悲しみ、精いっぱい生きられた方は珍らしいと思います。先生の人間らしい輝きは先生亡きあと日毎に光を増してくるようです。この頃では、淋しさの中から静かな心で先生の遺されたよきものをかみしめる事ができるようになりました。

君在さぬさびしき部屋に今日も
また物言はず一日むなしく過ぎぬ

夕陽落ちて淋しき道を帰るとき
愛別離苦と口ずさみけり
という当時の思いから
かかる時 君在さばと思ひつつ
一年の日は静かに過ぎし
わが心くづぼるる時あの君のま
まひ思ひて心ひらくも
の心境になった昨今です。それでも街の行きずりに、吉田先生くらの中肉中背の、眼鏡をかけた姿にはつと振りかえる時があります。心のどこかで先生を待っているのでしょうか。

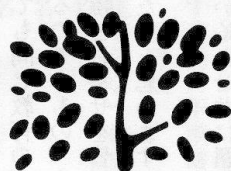
先生亡きあと、担任生徒の悲しみは「わが母の詩」という詩文集となり、私たち同僚の哀惜の情は「吉田節子先生を悼む」文集となり、学校、PTA、清苑会、占春会をあげての挽歌は「偲び草」の一編となり、精いっぱい生きられた魂の美しさを永久にとどめることになりました。

永遠に皆の心に生きる吉田先生を思ひで思い出の筆をおきます。

借り着

羽田 敦(一期生)

「いつも楽しそうね、何の苦もなく幸せだわ」といつてくれる人があるたびに私は答える、「私は太陽の輝く時のみを記録す—」



又H・Rはたいいての場合先生と私達の口論で終りました。いえ私達の方が反発してただけだったように思います。掃除が行きとどいていかなかったりH・Rの話し合いに無気力だったりすると決つて情けないと言つて涙を流しておられた先生。そんな先生の気持ちを理解するにはあまりにも私は退廃的だったのではないかと思ひます。現実の根強い習慣や世間一般の常識と学校で教えられる民主教育を一体どうかみあわせて自分のものにすればいいのかわからなくなり、結局自分を捨てるような投げやりな気持ちで退廃的になつてゆく私には、現実と理想をうまくかみあわせている先生が何か恐ろしくもあり、又反面皮肉な見方をすればうまく立ちまわつているといふふうにも思えました。しかし先生は断じてそのような生き方をされた先生ではありませんでした。世の中の多くの人は一見自分の考へで行動しているように見えて実のところ常識に振りまわされているように私には見えます。自分の考へで行動する時それが常識と言われるものにはずれていればその行動を起すのにはさうとうな自信があるのではないかと思ひます。なぜなら「あの人は常識はずれのことをして……」と人から指をさされるのがこわいからでしょう。要するに現実には生きていなくてはなくて現実には生きていなくてはだらうと思ふのです。でも吉田先

生は本当の意味で現実を生きられた方だと思ひます。少なくとも私には先生の存在がこのように写りました。おそらくそれがよくよく解つて来たのはそろそろ現実を知り始めた三年の一学期だったと思ひます。現実を知り始める頃まづぶち当るのが常識という厚い壁です。常識をうのみにして振りまわされるか常識を取捨選択して生きるか、それは自分なりの生き方考へ方を持つていかの否かの違いによつて決まると思ひます。私達の年代は現実を知らないだけにともすれば現実へのめり込まれて自分を見失つてしまひます。そんな時吉田先生の日頃の行いが目に浮かびました。先生は現実の中で胸をはつて生きておられました。堂々と決つて常識に惑わされることなく無視することなく生きておられました。私はようやく先生に對する反感が常に前向きに歩いておられることと、うらやましさから来ていたことに気がつきました。今まで現実を理論でしか知らないでいたのに、現実にはむなしだとか、つまらないだとか言つて先生に反発し退廃的になつていた自分がとてもはずかしく思へました。

先生の行動には、明るくやさしくそして強い精神力をもてという教訓がありました。何一つ教訓じみたことを言われませんでした。私にとつては先生の全てが教訓でした。そして私の先生に對する気持は反感から尊敬に変わりました。いつでも自分を後において、まず生徒のことを考へて下さつていた先生の気持ちに気づくにはあまりにも遅すぎました。私が大人になつたら先生をたづねているいろな話をし「そう、そうだったの、良かったわね本当に……」。そんなふうになつてもらへる幸せな一時を夢みていました。先生はいつでも何を言つても穏やかなほほえみを浮かべて話を聞いて下さいました。いつでもクラス四十五名のことを考へ一人でも良き道はずれることなく歩いて行けるよう気を配つていらつしやいました。

今でも思ひ出します。昼すぎの授業の時に眠気さましと言つて「私は猫の子猫の子、おひげが……」といつてゼスチャーをしながらかを歌われた先生、そんなささいなところにも先生の心づかいがあらわれていました。その先生の気持ちを素直に受けとめるには本当に遅すぎたのだと悔やまれてなりません。雨降つて地固まると言ひますが私達と先生の間にはあまりにも長い雨だったようです。そして雨が止みやつと地が固まろうとする時に先生は永遠の人となつてしまわれました。もうすぐ一年が来ようとする今でもその悲しみと口惜しさは変わることがありません。しかし先生の残された明るさとやさしさ、そして強靱な精神力をもつてという教訓は一生涯私の心の中に消えることがないだらうと思ひます。

私たちの会は
このように歩んできました

書記 中西明子 26年卒

占春会の皆様 お元気でいらつしやいますか。

既に御存知の通り総合選抜制加入の問題から、母校清友の府移管問題へとめぐつて、占春会も否応なくその渦中に巻き込まれた形になりましたが、母校のより発展を願つて、学校、PTA、卒業生父兄の方達と同調し、共に歩みを進めて参りました。ここにその二三年來の占春会の動きの記録を、順を追つて御報告申し上げたいと思ひます。

46年2月13日 会長宅
会報編集会議

出席 西沢・吉田両先生 役員一同
総会日時決定 会報の内容を具体的に決め、原稿依頼の段取。

46年3月6日 会長宅
原稿集めと整理 出席 前回と同じ

当用漢字、新かなづかいに訂正。
名簿の住所訂正。

46年4月13日 会長宅
会報の校正

出席 先生役員有志

46年4月17日 会長宅
会報発送準備(総会通知)

出席 西沢・吉田両先生 役員一同
会報代表有志。

46年5月9日 母校講堂
占春会総会

校長先生 初め多数の先生の参加を

得て、新入会員歓迎の後、卒業生在校生による舞踊発表、ギター演奏が行われました。

46年7月3日 母校
高校入試総合選抜制についての説明会、

出席 校長 教頭 西沢各生 役員一同

48年実施(当時予想)に關連して母校清友の将来について内包する諸問題の説明

46年8月9日

びわ湖パレーバスツアー
出席 教頭 西沢 吉田各先生 会員多数。

山頂では花のみだれ咲いた週迎をリフトで一週し、故吉田先生も混じえた爽やかな夏の一日でした。

高校27年卒のクラス会の方達が同行されました。

46年9月18日 母校
陣情「要望書」作成

出席 PTA 教職員 占春会若千名

選抜制度、加入の条件に叶う様八尾市当局へ陣情する為の下準備

46年10月23日 於母校
「選抜制加入推進委員会」結成

学校側代表11名
PTA代表11名

清苑会代表3名
占春会代表3名

特別協議会と署 し発足する。

46年12月7日 八尾市役所
八尾市へ陣情書を提出

出席 市長 文教委員 教育長

議長

学校側 校長以下5名 PTA 10名 占春会3名 市長を中心に膝をまじえ、質疑応答がなされた。

46年12月11日 府立婦人会館 選抜制についての説明会

出席 富田校長 小西教頭西沢

吉田・徳田・畑中・井上各先生

占春会役員、回期代表他、広く卒業生に協力を依頼するため、選抜制の意義及び母校清友の加入に關連する諸問題について各先生より説明があり、占春会も一丸となつての協力を求められた。

47年2月8日 府庁

推進委員会へ陳情、参加 教育関係諸団体

47年3月28日 八尾市役所

選抜加入推進陳情

出席 市長 助役 教育長市議

学校長他6名 PTA代表 占春会代表3名 教育長を中心に各代表と具体的な方法の質疑応答がなされた。

47年3月31日 会長宅

總會準備会

西沢、吉田先生を初め占春会役員一同出席

47年4月28日 会長宅

總會通知発送

出席 西沢・吉田両先生 役員一同

各回期代表多数

47年5月14日 母校講堂

占春会總會

新入会員歓迎。選抜制加入途動經過報告

六期生の辻本さん指導によるペーパーフラワーを講習

47年7月 校

府立清友高校実現への運動

出席 特別協議会全員、

第79高校(恩智)増設に際し、その中へ清友高校を移管して貰える様推進しよう。

47年7月29日 会長宅

府立清友高校実現陳情について会合。

出席 校長 教頭 西沢・吉田各先生 役員全員 各回期代表多数

陳情書に署名運動を依頼。

47年8月26日 母校

促進委員会經過報告

特別協議会を府立移管促進委員会と改名。

出席 PTA 清苑会 占春会各代表

今後共市や府に強力にアタックし、運動を進めよう。

47年8月28日 八尾市民ホール

八尾市役所へ陳情

出席 PTA約二百人 占春会代表数名

市長に対し、全市場げての府への働きかけを要望する。

47年8月30日 府庁

府庁へ陳情 出席 八尾市長 市議 PTA 占春会

47年9月13日 母校

府立移管促進委員会合

出席 PTA 占春会会長

市民ホールで決起大会開催を決定。占春会より多数参加を要望される。

47年9月20日 八尾市民ホール

清友高校即時府立移管実現大集会 出席 PTA大多数 清苑会 占

春会員多数

名代表が市議 府議 文教委員に要望を発言。

47年9月27日 府庁

府庁へ陳情

出席 知事 副知事 教育長 府議

学校側 PTA 占春会各代表

清友の即時府立移管へと陳情、黒田知事、玉田教育長より直接の応答を得る。

48年3月10日 於会長宅

会報編集及び總會準備会

出席 西沢・吉田両先生 役員全員

会報の編集内容相談

48年3月23日 会長宅

總會準備と原稿集め

出席 西沢・吉田両先生 役員全員 中易さん指導による紙人形の実習、

会報編集等を羽田姉に依頼

48年4月20日 会長宅

会報発送準備会

出席 役員一同 回期代表多数。封筒の宛名書を依頼

48年5月12日 会長宅

会報発送 封筒入れ

出席 前回と同じ

48年5月20日 母校講堂

占春会總會 新入会員歓迎 紙人形の講習を中易姉の指導によって行う。

48年6月28日

吉田節子先生急逝 通夜

占春会有志参加

死を悼みました。

48年7月20日 母校講堂

吉田先生追悼式有志参加

48年10月22日 母校

学校用地発表及び「偲び草」完成

出席 校長 西沢両先生 役員数名

府立移管に伴い八尾飛行場隣接地に学校用地を確保した事を発表される。騒音の件、交通便の件、多くの問題を内包しているとの事。

「清友」の校名を残す事を学校、占春会掲げて要望すること。

49年4月8日 会長宅

会報編集会議 總會準備

出席 西沢・藪両先生 役員一同

編集内容を相談

49年4月20日 会長宅

原稿集めと中間編集

出席 西沢・藪両先生 役員一同

49年4月24日 母校

府立清友高校移管建設準備委員会 誕生

出席 校長 西沢各先生 PTA 占春会 清苑会各代表

府移管促進委員会は任務の目標に近づいたので今後は建設準備委員会と改名。

以上読みづらい経緯をたどって参りましたが、まだ大事な問題が残されています。府移管の暁には絶対「府立清友高校」の呼び名で誕生されます様占春会皆様の絶大なお力添えをいただきます様お願い申し上げます。

終

会報づくり

毎年皆様のお手許に届いております会報は、各回期代表の方々及び、占春会の係りの先生(西沢先生たち……)と共に、慣れない作業ながら、精一パイがんばって作られております。皆様のご協力をおねがいしたいと思います。

随想、旅日記 又はトピックニ
Ist etc.....

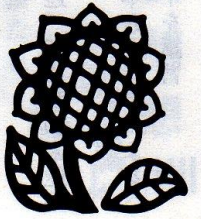
ご投稿をお待ちしております。
発送し終って、ホッと一息つく間もなく、ドサリと、「宛所に見当りません」と、返送された会報に、一同

ガックリ、こんなことのないように、住所変更を、お知らせ下さい。
住居表示が変更されると、お住まいは変わらないのに、もとの所書では配達されません。ご注意ください。



封筒に
会報を
つけた
出来上
入

母親 随想



平凡な母と娘

お淋しいでしよう？ 此の三月に一人娘を嫁がせた私に、どなたもが一樣におっしゃって下さるあいさつ。受けた私は全くとまどいを覚える。だって淋しいなんて思つた日はまだないんですもの。

「オギアー。」と元気のよい産声を聞いた日から、いづれは誰かのお嫁さんに。と常に念頭に置きながら育てて来ましたもの。職業を身につけて社会に出られる方も御立派です。個性を生かしてその道々に進まれる方もあります。でも平凡に育つて来た母親が、平凡に育ててしまつた娘から、やつと見出したものは、平凡な人妻への道しかなかったのです。平凡な主婦業を馬鹿らしく思わず、自分なりの工夫をこらして、家族が気持ちよく暮らせる家庭を築くようにと育て、来ました。そして夫婦が力を合わせて、娘を気持ちよく第二の人生に向かつてスタートさせてやりたい一心から、必要最少限の物を支度してやりました。親戚の者が、「かをりちゃん、こんなにして貰つて有難いと思いや、お父さんやお母さんに恩返しをせなあかんよ。」と口々に申しましたが、私はそれを期待しません。私が嫁ぐ時、「恩返しは、又自

分の子供を丈夫に育て、自分以上幸せにしてやってくればそれでよい。」と云つてくれた母の言葉を、今思い出し、娘にもそう申しました。二十年間、はぐくみ作り上げた私の芸術品を自信をもって送り出して、やれやれと云う安心感が淋しさを打消してくれていると思います。平凡イコール平和。と思ひ込んで、平凡な育て方は間違つていなかったか？と自問自答して見る此の頃です。答は娘が一生か、つてしてくれる事でしょう。

「お母さんが、おばあちゃんを尊敬している様に、貴女もいつかはお母さんの事、チョッピリ尊敬してくれたら嬉しいわ。」と話し合いました。子供を生み、育て、嫁がせる。これは女の歴史だと思つたのです。歴史はくり返されます。少しづつ開放され乍ら、少しづつ進歩し乍ら。そんな歴史の一コマにこんな平凡な母親が一組位いてもいいのではないでしようか。

ミニ情報

地下鉄・京阪淀屋橋のサンフラワー淀屋橋のロジエ、一階エレベータ横のプチフラワーコーナー、28年卒辻本恵美子姉のお店でした。リボンフラワー、ペーパーフラワーなど、教えてもらえます。

＊ ＊

本屋でのぞいた実業之日本社のガイドブック「バック奈良・大和路」：一期生の羽田姉も執筆者の一人でした。ピンクの背表紙のかわいい。

会報を発送してホッとする間もなく、ドサリドサリと出した郵便が戻ってきます。会員の皆様方、住所変更、ご結婚等で姓の変られた方、必ず下記役員名簿一覧表中書記の松谷・寺島・中西の各姉か、それぞれ卒業年度の回期代表宛ご一報下さい。会報が皆様の手に行き渡ります様に……協力して下さい。

占春会役員名簿

河柳中松寺中有前羽稻	合生易谷島西川田部	聿和敬照悦明育千恭	子子子子子子子子子	(村田)	577	東大阪市足代新町2-48	(06) 781 - 0 5 9 7
				(上田)	537	大阪市東成区東小橋北之町3-2-26	(06) 972 - 1 7 0 7
				(本田)	577	東大阪市大蓮東2-13-5	(06) 721 - 5 0 2 8
				(羽原)	546	大阪市東住吉区田辺西の町6-1	(06) 622 - 3 5 8 1
				(宮本)	553	大阪市福島区吉野町1-121	(06) 461 - 5 6 5 8
					560	豊中市原田中1丁目7-5	(06) 855 - 1 5 9 4
					581	八尾市山本町3-1-11	(0729)22-4573・(06)976-4361(勤)
					577	東大阪市菱屋西27	(06) 723 - 4 8 7 8
					536	大阪市城東区今福西4丁目2-27	(06)939-6310・(06)202-1281(勤)
					543	大阪市天王寺区玉造元町3-15	(06) 761 - 0 5 8 8
49年 回 期 代 表							
					581	八尾市大字新宮寺204-26	(0729) 43 - 7 1 0 9
					581	八尾市八尾木420	(0729) 92 - 5 0 0 8
					577	東大阪市大蓮南4-17-9	(06) 728 - 2 2 9 8
					544	大阪市生野区桃谷4-5-15	(06) 717 - 0 0 2 9
					579	東大阪市布市町3-8-62	(0729) 82 - 3 7 7 4
					581	八尾市福万寺町南1-43	(0729) 99 - 0370

クラス会 二十三年卒
48年11月18日(日) PM2時
於 本町美々卯
世話人 中易敬子 柳生和子

西沢先生、斎藤先生、尾崎先生を囲み、12名が旧交を暖めた。はるばる名古屋より大池登茂子さんや、向節子、向井重世、原初栄さん方初顔を加えて楽しいひとときをすごしました。帰途御堂筋の銀杏並木を眺めながら、大阪のゆく秋を借しみつつ、散会しました。



編集後記

▽昭和50年度の占春会役員名簿を新しく編集いたします。
住居表示変更、及び転居された方、結婚された方、学校もしくは、回期代表までご連絡下さい。名簿作成の折、広告のご依頼に伺います。その節は、よろしくご協力おねがいします。
▽吉田先生の偲び草、まだ手元にごさいます。総会当日お申出下さい。又は会長までご連絡下さい。
電話781-0597 河合聿子
▽前年度は級会だよりが少なく、淋しいです。
今年は大いに旧交を暖めて下さい。尚、その時の様子をご報告下さい。楽しみにしております。